
摂津市における高齢者施設での COVID-19 クラスターに対し
地域医療チームとしての介入を経験した一事例
(今後の地域医療計画に対する考察)

切東 美子
(摂津ひかり病院)

2020年1月から流行した新型コロナウイルス感染症から2年が経ち我々は第7波まで経験した。

この100年に1度といわれている未曾有の災害に対し当初は個々の診療所とかかりつけの患者や病院の院内感染だけの取り組みに留まっており、地域における高齢者施設の対応まで考慮していなかった。

第1波から第2波を経験したころより患者数の中に高齢者が占める割合が増えてきたため高齢者へのワクチン接種が優先された。そして第5波から第6波では、高齢者には優先的にワクチン接種をしたにもかかわらず、入院患者の中で高齢者の占める割合が増加し、大阪府では高齢者の死亡者数が全国最多であった。その背景にある要因は何なのか。以前から言われている医療と介護の連携は実際どんなものだったのか。地域医療における位置づけはどうすべきなのか？

今回、摂津市における経営母体の異なる介護福祉施設へ地域の医療チームとして協力介入した経験から、具体的な内容や結果を報告することで、今後の感染予防に対する地域医療計画への提言につなげていきたい。